

令和4年度 学力向上プラン（留意点入）

学校名 中央区立銀座中学校

学校の教育目標

きたえる学校 ○自ら考え 進んで学ぶ人になろう
 ○情操を高め 心豊かな人になろう
 ○心身をきたえ たくましい人になろう

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力・人間性等を涵養し、「確かな学力」の向上を図る。

令和3年度「学習力サポートテスト」や令和3年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国 語	「令和3年度学習力サポートテスト」における情報の扱い方に関する事項、書くことの単年で1学年では区の平均に比べ4ポイント低くなっている。伝統的な言語文化と国語の特質に関わる事項の単元では2学年が区の平均に比べ4ポイント低くなっている。全国学力・学習状況の結果から書くこと分野が6ポイント低い。	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度 I-check から家庭での学習を行わない生徒が全国に比べ3ポイント高く基礎基本の力が不足している。 授業アンケートから読書量が少なく読み取る力がついていないことがわかる。
数 学	「令和3年度学習力サポートテスト」における特に図形、変化と関係の単元が1学年では区の平均より3ポイント低くなっている。2学年は区の平均と同じであるが、数と式の単元が平均より1.5ポイント低くなっている。	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度 I-check から家庭での学習を行わない生徒が全国に比べ3ポイント高く、反復学習による基礎学力が定着しない。
社 会	「令和3年度学習力サポートテスト」において1学年、2学年共に区の平均点より2ポイントほど高いが、両学年ともに基礎学力は平均点より2ポイントほど高いのに対し、活用問題は2ポイントほど低い結果になっている。「令和4年度学習直サポートテスト」において3学年が区の平均より4ポイント低い。	<ul style="list-style-type: none"> 知識を増やすのみの学習経験を積んできている。 サポートテストの記述式で無回答の生徒が多く活用問題に苦手意識をもっている。
理 科	「令和3年度学習力サポートテスト」において1学年は全領域平均点より2ポイントほど高いが物の燃え方のみ平均と同じである。2学年は区の平均も領域別も高いが、エネルギーの領域だけ区の平均に比べ6ポイント低くなっている。	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度学力向上を図る調査で他教科に比べ理解できないと回答する生徒が多い。 説明・要約など言語活動の経験が不足している。
英 語	「令和3年度学習力サポートテスト」における聞くことの単元が1学年では区の平均と比べ1ポイント低くなっている。読むこと、書くことの単元が2学年は区の平均と比べ3ポイント低くなっている。	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度生徒の学力向上を図る調査から得意ではない意識の生徒が全国の平均より3ポイント高いため、基礎基本の学力が低い。

保健体育	体力テストの結果から走・跳・投の基礎的運動能力の不足の生徒がみられる。仲間とコミュニケーションをとりながら、積極的に運動に取り組むことが苦手な生徒が多い。令和4年度東京都生徒体力・運動能力調査においてハンドボール投げが全学年とも区、都、全国の平均より低い。	・令和3年度東京都生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査において全学年でハンドボール投げのポイントが低い。そのため投げる力が不足していることがわかる。
------	--	--

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
①各教科	国語	読むことの、書くことの単元で「令和4年度学習力サポートテスト」の全ての学年で、区の平均点を上回るようにする。
	数学	「令和4年度学習力サポートテスト」で全ての学年の全ての領域において区の平均点を目指す。
	社会	「令和4年度学習力サポートテスト」で全ての学年の活用の問題で区の平均を上回れるようにする。
	理科	「令和4年度学習力サポートテスト」で全ての学年の全ての領域において区の平均を上回れるようにする。
	英語	「令和4年度学習力サポートテスト」で2学年では聞くこと、3学年は書くことの単元で区の平均を上回れるようにする。
	体育・保健体育	全国体力テストにおいて全ての学年で投げるの項目で区の平均を上回れるようにする。
②授業改善		学期ごとに行う授業アンケートで生徒の85パーセント以上が授業に意欲的に取り組んでいる結果になるように授業を行っていく。
③家庭との連携		年度末の学校評価で保護者アンケートの中で「学校との連携ができています」という項目で80パーセントが肯定的な回答になるようにする。
④体力向上		4月の体力テストの長距離走のタイムと比べ、3学期の長距離走の単元で80パーセント以上の生徒が自己新記録を出せるように体力向上に取り組む。



【目標達成のための具体的な取組内容】

①各教科	
国語	朝学習の時間を使用し、タブレットのドリルパークで基礎基本に取り組んで行く。また、朝読書を行い読む力をつけていく。
数学	朝学習の時間を使用し、タブレットのドリルパークで基礎基本に取り組んで行く。また、週末に復習プリントの課題をだし、学習の定着を図る。
社会	定期テスト以外に単元ごとのテストや社会情勢のテストを行う。また、知識だけではなく、授業の中でタブレットを使用した発表などを取り入れ知識を活用していく授業を行っていく。
理科	実験・発表の機会を増やし知識だけでなく体験して考える力を養っていく。また、学習後に復習プリントを行い繰り返し書くことで学力の定着を図る。
英語	読解への苦手意識をなくすために、レベルをつけてスモールステップ学習をする。また、授業の中で文法習得後に書くことで学習の定着を図る。
体育・保健体育	体力向上のために毎回の授業の中で筋力トレーニングを行っていく。学年や単元によって強度は変えていく。球技を取り入れ投げる学習を増やしていく。

②授業改善

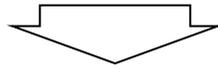
取組Ⅰ	4月当初に本校の指導教諭が講師となり、評価方法やICT機器を使用した授業方法の研修会を行い、学校全体で情報共有を行い授業改善を行っていく。
取組Ⅱ	令和5年度の研究発表に向けICT機器を活用した基礎学力の向上を目指し、校内研修会を通して教員の授業を参観し意見交流する場面を設定していく。

③家庭との連携

取組Ⅰ	SNSやタブレット利用における家庭ルール作りを家庭に浸透するよう、委員会だけではなく、学校全体として取り組み、保護者会やClassroomで伝えていく。
取組Ⅱ	担任から、生徒の日常的な生活の様子、学習状況や課題の提出状況などを伝え、家庭との連絡を多く取り、連携した指導を行う。

④体力向上

取組Ⅰ	体力向上のために毎回の授業の中で筋力トレーニングを行う。学年や単元によって強度は変えていく。
取組Ⅱ	授業及び外部講師による講演会等により、体力の向上とともに自己の心と体の健康について理解を深めるための学習活動を行う。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
①学力基盤	国語	タブレット端末を活用し、視覚的な理解を促進し、生徒の意欲の向上を図り、主体的に課題に取り組み、問題解決に向かう姿勢が見られた。	主体的・対話的で深い学びを意識した授業展開を工夫し、生徒の思考力・判断力を高めることで、課題解決に向かう力が向上する。
	算数・数学	タブレット端末を効果的に活用し、問題解決型の授業を多く実践した結果、主体的に課題に取り組み、問題解決に向かう姿勢が見られた。	主体的・対話的で深い学びを意識した授業展開を工夫することで、より一層、主体的に課題に取り組み、課題解決に向かう力が向上する。
	社会	タブレットを活用した調べ学習や表現活動を実践し、学んだ知識を活用する授業実践を行った結果、意欲的に取り組み、新たな知識を獲得する生徒が見られた。	授業のねらいを具体化し、1単位の授業でどのような力を身に付けるかを明らかにすることにより、習得し活用すべき知識や技能をはっきりさせる。
	理科	授業のねらいを明確にし、話し合い活動を定期的に行った結果、生徒の意欲の向上が見られた。	主体的で対話的な深い学びを実現するために、発問を工夫し、生徒に思考力・判断力の醸成を図る。
	英語	タブレットを活用して長期休業中にプレゼンテーションを作成させ、授業で発表を行った。その結果、主体的に調べ、英語の話す力が飛躍的に伸びた。	どの生徒も意欲的に取り組んでいる反面、英語を正確に話すことには課題があるので、手段や方法などの確に指導することでさらに向上する。
	体育・保健体育	筋力トレーニングの結果、握力や上体起こしは記録が向上している。	課題であったハンドボール投げは向上が少ないので、来年度も継続してトレーニングを行っていく。
②授業改善	全教科、研究授業を行い、全教員で授業改善による研修会をおこなった。	今年度同様全体で授業改善に向けて研究授業を行い、研究発表で成果を発表していく。	
③家庭との連携	タブレットを利用することで、手紙など保護者に行き渡ることが多くなった。	来年度も Classroom での配信を中心に継続していく。	
④体力向上	筋力トレーニングを毎時間取り入れることで筋力の値は向上した。長距離走も85%の生徒が記録の向上につながった。	柔軟性、ボール投げを授業内の導入部分で積極的に行っていく。	